

*** 帝国陸軍の航空カメラ「一式固定射撃監査写真機」発見**

2010年10月22日、23日の2日間、国立天文台を中心に「三鷹・星と宇宙の日 2010」という特別公開が開催された。国立天文台天文情報センターでは、2009年末から2010年6月にかけて整備を進めた太陽塔望遠鏡（アインシュタイン塔）の内部をこのイベントの機会に公開する準備を進めた。非常に残念なことは、この建物が大正15年～昭和5年（1926～1930年）に建設されたもので、現在の建築基準を満たしていないため、塔部分へ登ることはできない公開になったことである。それでも塔望遠鏡の建物が公開されるのは初めてのことであり、当日はたくさんの方が見学にやってきました。

この公開のために、いろいろ古い観測装置や日食観測隊の観測装置を展示しようと探して展示した中に非常に珍しいもの（写真1）があった。当事者の筆者がそれと気がつかなかったのであるが、同僚が「これは非常に珍しい、軍が使っていたものだ」というのである。そう言われて名盤を見ると「一式固定射撃監査写真機」（写真2）とある。これは航空カメラの1種で、戦闘機が機銃射撃をする際、目標物の写真を撮るためのカメラだという。



写真1 射撃監査写真機

写真2の名盤にあるように、これは昭和18年（1943年）に六櫻社（後のコニカ）製で

ある。これはスミソニアン国立航空宇宙博物館・別館に展示されている帝国陸海軍現存兵器として展示されている「陸軍 一式固定射撃監査写真機 六櫻社」の類似品と思われる。



写真2 射撃監査写真機の名盤

このような軍用品がなぜ塔望遠鏡の棚に眠っていたか今となっては知る由もないが、筆者はこのカメラを軍用品とは気付かず、恐らく日食観測隊が使った観測用カメラの一つであろうと、その詳細は不明として展示していた。

全体としてカメラであるが、本体からカメラ部分を引き出したところが写真3である。



写真3 本体からフィルムの入るカメラ部分を引き出したところ

このカメラで特徴的なことは、ファインダーのアイピースが横を向いていることである（写真1参照）。恐らく機銃とこのカメラは照準が合わせてあってファインダーを使う必要はないものと思える。同種のもがスミソニアン博物館に展示してあるが、そのカメラには、このファインダーは付いていない。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp